

別紙様式 2

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体等名：仙台少年鑑別所盛岡少年鑑別支所

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和5年度実施状況・計画)	参考（令和4年度実施状況）
目標 1 青少年を中心とした 広報・啓発を通じた国民全体 の規範意識の向上による薬物 乱用未然防止	学校等関係機関からの依頼に応じて、人間科学の 専門職である法務教官や法務技官（心理）が、薬物 乱用防止教室を実施できる体制を整えている。単に 違法薬物が害悪となるという知識の付与にとどま らず、各種の依存の背景にある心理についても解説 し、違法薬物に頼る以外の対処方法やSOSの出し 方などを併せて助言することを意識している。	同左 ※薬物乱用防止教室実施件数：1件
目標 2 薬物乱用者に対する 適切な治療と効果的な社会復 帰支援による再乱用防止	非行少年のアセスメントにおいて、家庭裁判所に 係属する事件名が薬物非行であるかどうかにかか わらず、薬物乱用歴を丁寧に聴取し、乱用歴のある 者については、薬物への依存の程度やメカニズムを 分析し、必要に応じた対応について処遇機関に引き 継ぐよう心掛けている。また、薬物非行歴のある少 年院送致対象者については、アセスメントの依頼が あった際、薬物に係る問題が少年院の教育を通じて どのように変化したか、教育効果の検証に協力して いる。そのほか、地域の関係機関等からの依頼に応 じて、薬物乱用防止ワークブックを用いたプログラ ムを実施できる体制を整えている。	同左 ※ワークブックの実施依頼はなかった。

目標 3～5 該当事項なし。

別紙様式 3

機関・団体等名：仙台少年鑑別所盛岡少年鑑別支所

【地域援助による協力】

盛岡少年鑑別支所は、「法務少年支援センターいわて」として、地域の非行・犯罪の防止に係る地域住民個人からの依頼と、関係機関からの依頼の双方に応じて協力を行っている。支援対象者は少年に限らず、子どもから大人まで幅広く依頼に応じることが可能である。現在、地域援助における薬物乱用防止関連についての依頼は、薬物乱用防止教室の依頼が年に数件ある程度であるが、目標 2 に記載した薬物乱用防止ワークブックを用いたプログラムなどは、関係機関に実施ニーズがあり、かつ対象者がプログラム受講に同意すれば、無料で実施可能である（地域住民個人からの依頼でも対応可能）。

なお、プログラム実施の前段階として、対象者の薬物乱用・依存の心理的メカニズム等をアセスメントする必要があるところ、当支所では人間科学の専門職である法務技官（心理）と法務教官が協力してアセスメントとプログラムを実施する体制を整えている。

別紙様式 2

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体等名： 盛岡保護観察所

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和 5 年度実施状況・計画)	参考 (令和 4 年度実施状況)
目標 1 青少年を中心とした 広報・啓発を通じた国民全体の 規範意識の向上による薬物乱 用未然防止	<p>1 第 7 3 回“社会を明るくする運動”は、昨年度までは規模を縮小したり中止を余儀なくされることもあったが、今般の新型コロナウイルス感染症法上の見直しにより、7 月 3 日の盛岡駅広報活動を皮切りに例年通りの規模に戻しつつ、可能な範囲で薬物乱用防止等の広報・啓発活動に努める。</p> <p>2 学校における薬物乱用防止教室に保護司等が参加協力し、薬物再乱用防止等の広報・啓発活動を実施する。</p>	<p>1 第 7 2 回“社会を明るくする運動”は、新型コロナウイルス感染症対策のため昨年同様例年より規模を縮小せざるを得ない状況にあるものの、可能な範囲で、薬物乱用防止等の広報・啓発活動に努めていく。昨年度は中止となった盛岡駅前広報活動は規模を縮小して実施した。</p> <p>2 学校における薬物乱用防止教室に保護司が参加協力し、薬物再乱用防止等の広報・啓発活動を実施した。</p>
目標 2 薬物乱用者に対する 適切な治療と効果的な社会復 帰支援による再乱用防止	<p>1 薬物依存のある刑事施設被収容者の引受人及び保護観察対象者家族等を対象とした引受人等座談会について、年間 2 回以上実施する。</p> <p>2 上記座談会においては、ダルク等の当事者団体、精神保健福祉センター、県立岩手大学など多くの機関と連携し、依存症に関する知識の習得や制度利用説明など、依存症の回復及び社会復帰支援に</p>	<p>1 薬物依存のある刑事施設収容者・保護観察対象者の引受人や家族を対象とした引受人等座談会について、本年度第 1 回目を本年 7 月 5 日に開催した（参加者 1 5 名）。第 2 回目は令和 5 年 1 月に開催した。</p> <p>2 上記引受人等座談会において、秋田ダルク及び精神保健福祉センターに講師派遣を依頼し連携を図った。</p>

	<p>関する理解促進の機会を設ける。</p> <p>3 薬物再乱用防止プログラム受講が義務付けられている保護観察対象者に対し、同プログラムを確実に実施し再犯防止を図る。また、プログラム受講が義務付けられていない保護観察対象者に対しては、任意によるプログラム受講や簡易薬物検出検査を実施し断薬意思の継続を促す。</p> <p>4 「薬物依存のある刑務所出所者等の支援に関する地域連携ガイドライン」を踏まえ、地域社会における「処遇」及び「医療」並びに「援助」などの支援を適正かつ円滑に実施するため、精神保健福祉センター、医療機関、民間の薬物依存回復訓練施設等と連携しながら協力体制の整備に努め、これら関係機関と地域支援連絡協議会を開催する。</p> <p>5 薬物事犯対象者に対する処遇の実効性を高めるため、更生保護関係団体による薬物事犯対象者に対する保護観察等をテーマとした地域処遇会議を積極的に開催する。</p>	<p>3 プログラム受講が義務付けられている保護観察対象者に対し、薬物再乱用プログラムを確実に実施し再犯防止を図る。また、プログラム受講が義務付けられていない保護観察対象者に対しては、任意による薬物検出検査を実施し、断薬意思の継続を支持した。</p> <p>4 「薬物依存のある刑務所出所者等の支援に関する地域連携ガイドライン」を踏まえ、地域社会における「処遇」及び「医療」並びに「援助」などの支援を適正かつ円滑に実施するため、精神保健福祉センター、医療機関、民間の薬物依存回復訓練施設等と連携しながら協力体制の整備に努め、これら関係機関と地域支援連絡協議会を開催した。</p> <p>5 薬物事犯対象者に対する処遇の実効性を高めるため、薬物事犯対象者に対する保護観察等をテーマとした地域処遇会議を積極的に開催する。</p>
--	--	--

目標 3～5 該当事項なし。

別紙様式 3 その他、取組事項等なし。

別紙様式 2

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体等名：仙台出入国在留管理局盛岡出張所

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和 5 年度実施状況・計画)	参考 (令和 4 年度実施状況)
目標 4 水際対策の徹底による薬物の密輸入阻止	<p>本年 5 月 10 日から国際線の運航が再開され、毎便、満席に近い搭乗者のほとんどを外国人が占めている。限られた時間の中でも、出入国審査リスト及び生体認証情報等を活用した厳密な出入国審査を行う。</p> <p>規制薬物法令違反者として退去強制され、長期入国拒否対象になっている者が、適法に氏名等身分事項を変更して旅券を取得し、入国を企図する可能性もあることから、入国審査における生体認証情報の取得と照合により、そのような者の入国を確実に阻止する。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、いわて花巻空港の国際線の全便欠航が続いていたため、出入国審査を行なったのはプライベート機数便のみであったが、出入国審査においては、従前のおり出入国審査リストの確認及び生体認証情報の適正な取得を行なった。</p>

目標 1 ～ 3 及び 5 該当事項なし。

別紙様式 3 その他、取組事項等なし。

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体名等：釜石税関支署（含宮古、大船渡）

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和 5 年度実施状況・計画)	参考（令和 4 年度実施状況）
目標 1 青少年を中心とした 広報・啓発を通じた国民全体 の規範意識の向上による薬物 乱用未然防止	<p>高校生・中学生等を対象とした「薬物乱用防止教室」を実施し、薬物乱用未然防止を図った。今後も積極的に同教室を実施していく。</p> <p>令和 5 年度 薬物乱用防止教室実施状況（7 月現在） 岩手県内 高校 3 校、宮古保健所 1, 0 8 3 名</p>	<p>令和 4 年度 薬物乱用防止教室の実施。 岩手県内 高校 9 校 1, 7 2 6 名</p>

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取組み等 (令和5年度実施状況・計画)	参考（令和4年度実施状況）
目標4 水際対策の徹底による薬物の密輸入阻止	<p>① 水際での密輸阻止が最も効果的であることから、取締関係機関と連携を密にして、釜石、宮古、大船渡港に入港する外国貿易船や外航クルーズ船、外国から到着するコンテナを中心とした輸入貨物及びいわて花巻空港に入港する国際定期便（仕出：台湾）、の旅客等に対し、関係機関との連携強化を図りつつ、集中的に取締りを強化する。</p> <p>＜実施状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国貿易船に対する立入検査の実施。 ・コンテナ貨物に対する検査の実施。 <p>② 関係団体等に対して、密輸防止及び情報提供に関するリーフレット等の配布を行っているほか、税関ホームページ、ユーチューブ（税関チャンネル）、ツイッターなどのソーシャルメディアを活用し水際取締対策等の広報を行い、広く一般の方々からの情報収集の強化を図っている。</p> <p>また、情報提供に当たっては、密輸ダイヤル（全国共通・24時間受付・0120-461-961（白い黒い））のほか、税関ホームページに密輸情報提供サイトを開設し、インターネットからの情報提供が可能となっている。</p>	<p>① 外国貿易船に対する立入検査を実施。 外航クルーズ船 実績なし いわて花巻空港国際定期便 実績なし</p> <p>② 関係団体に対するリーフレット等の配布及び新聞記事を介し、密輸防止及び情報提供を行い、広く一般の方々からの情報提供依頼を行った。</p>

目標2～3及び5 該当事項なし。

別紙様式3 その他、取組事項等なし。

別紙様式 2

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体等名：釜石海上保安部

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和 5 年度実施状況・計画)	参考 (令和 4 年度実施状況)
目標 3 薬物密売組織の壊滅、末端乱用者に対する取締りの徹底及び多様化する乱用薬物等に対する迅速な対応による薬物の流通阻止	組織的な密漁事件等において、薬物犯罪も見据えた捜査を行い、薬物犯罪にかかる端緒の発見に努めるとともに、関係機関と適宜連携するなどして、乱用薬物等に対する迅速な対応及び薬物の流通阻止に取り組む。	暴力団が関与する組織的な密漁事件等において、薬物犯罪を見据えた捜査を併行し、薬物乱用者の摘発に努める。
目標 4 水際対策の徹底による薬物の密輸入阻止	近年の海上における密輸情勢は、手口の大口化・巧妙化の傾向が見受けられ、監視の目が届きにくい地方港での密輸等は常に懸念される。 外国の港から当部管内の港に直接入港してくる外国船舶に対し、質問票の提出を求め、船舶代理店や関係機関との連携強化・情報共有を密にし、必要に応じて監視を実施する体制を継続していく。また、一定の条件に合致した船舶に対し、船内でふき取り調査を行い、同調査で得た資料を解析することで、薬物等の密輸入の端緒発見に努める。	近年の海上における密輸情勢は、所謂「瀬取り」と言われる洋上での積荷の受渡し、コンテナ貨物を利用するもの等が発生しており、手口の大口化・巧妙化が見受けられる。 また、地方港が狙われる傾向があることから、当部管内に外国の港から直接入港してくる外国船舶に対し、積荷等に関する質問票の提出を求めるとともに船舶代理店や関係機関との連携強化・情報共有を密にし、必要に応じて監視を実施する。

目標 1 ～ 2 及び 5 該当事項なし。

別紙様式 3 その他、取組事項等なし。

別紙様式 2

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体等名：岩手労働局

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和 5 年度実施状況・計画)	参考 (令和 4 年度実施状況)
目標 1 青少年を中心とした 広報・啓発を通じた国民全体 の規範意識の向上による薬物 乱用未然防止	意識啓発を図るため、岩手労働局及び労働基準監督 署、公共職業安定所に薬物乱用防止のポスターを掲示 する。	同左

目標 2 ～ 5 該当事項なし。

別紙様式 3 その他、取組事項等なし。

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体等名：東北厚生局麻薬取締部

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和 5 年度実施状況・計画)	参考 (令和 4 年度実施状況)
目標 1 青少年を中心とした 広報・啓発を通じた国民全体 の規範意識の向上による薬物 乱用未然防止	① 薬物乱用防止教室等への講師派遣 ② 啓発パンフレット等の配布 ③ 麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動山形大会の開催	① 薬物乱用防止教室等への講師派遣 ・プロサッカー選手、JOC 強化指定選手 4 件 ・大学生、中学生 4 件 ・県、市、保健所など 3 件 ・その他 14 件 計 25 件 1, 239 名に実施。 ② 啓発パンフレット等の配布 スポーツ関係団体、中学校、陸上自衛隊等に、麻 薬・覚醒剤乱用防止パンフレットを 100 部以 上配布した。 ③ 麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動岩手大会の開催 麻薬取締部長他 1 名が参加し、薬物乱用の危害 等について広報・啓発活動を実施した。

<p>目標 2 薬物乱用者に対する適切な治療と効果的な社会復帰支援による再乱用防止</p>	<p>① 相談窓口の対応 ② 薬物乱用者及びその家族に対する再乱用防止対策事業の推進 ③ 薬物中毒対策連絡会議及び再乱用防止対策講習会の開催</p>	<p>① 相談窓口の対応 麻薬取締部設置の相談電話で薬物に関する各種相談を受理した。 ② 薬物乱用者及びその家族に対する支援 薬物相談電話等を利用し、薬物乱用者の家族や知人からの相談に対応し、必要な助言を行った。 ③ 薬物中毒対策連絡会議及び再乱用防止対策講習会の開催 新型コロナウイルス感染拡大のため、書面にて開催した。</p>
---	--	---

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和5年度実施状況・計画)	参考(令和4年度実施状況)
目標3 薬物密売組織の壊滅、末端乱用者に対する取締りの徹底及び多様化する乱用薬物等に対する迅速な対応による薬物の流通阻止	【実施状況】 ① 密輸事件被疑者の余罪捜査を徹底し、覚醒剤所持・使用を立件した。 ② 他地区の麻薬取締部と連携し、SNS を利用した麻薬、大麻密売事件捜査を実施、薬物購入客を検挙した。	① 管内の大麻・麻薬乱用者、大麻栽培者や覚醒剤密売人等に対する捜査を実施し、被疑者を検挙した。 ② 宮城県警察と合同で大麻栽培事件捜査を実施し被疑者を検挙した。
目標4 水際対策の徹底による薬物の密輸入阻止	【実施状況】 ① 岩手県内で発生した麻薬密輸事犯、大麻密輸事犯につき、函館税関と共同捜査を実施し、被疑者を検挙した。 ② 青森市内で発生した覚醒剤密輸事犯につき、青森県警察、函館税関と合(共)同捜査を実施し、被疑者を検挙した。 ③ 宮城県内で発生した覚醒剤密輸事犯につき、宮城県警察、横浜税関と合(共)同捜査を実施し、被疑者を検挙した。	① 青森県内で発生した大麻密輸事犯につき、函館税関と共同捜査を実施し、在日米軍属を含む密輸関係者を複数検挙した。 ② 宮城県内で発生した覚醒剤密輸事犯につき、宮城県警察と合同捜査を実施し、密輸関係者を複数検挙した。

目標5 該当事項なし。

別紙様式3 その他、取組事項等なし。

別紙様式 2

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体等名：一般社団法人岩手県医師会

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和 5 年度実施状況・計画)	参考 (令和 4 年度実施状況)
目標 1 青少年を中心とした 広報・啓発を通じた国民全体 の規範意識の向上による薬物 乱用未然防止	各種団体の開催行事への後援 岩手県薬剤師会の活動への協力	同左
目標 2 薬物乱用者に対する 適切な治療と効果的な社会復 帰支援による再乱用防止	薬物依存症・中毒者の早期発見と医療保護及び社会復 帰への支援	同左

目標 3～5 該当事項なし。

その他

岩手県、日本医師会よりの薬物乱用対策に関する各種通知文書を、各郡市医師会を通じて会員に情報提供している。

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体等名：一般社団法人岩手県薬剤師会

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和 5 年度実施状況・計画)	参考 (令和 4 年度実施状況)															
目標 1 青少年を中心とした 広報・啓発を通じた国民全体 の規範意識の向上による薬物 乱用未然防止	<p>(1) 学校薬剤師が中心となり、小学校・中学校・高校等における「薬物乱用防止教室」の開催を推進する。</p> <p>(2) ゲートウェイドラッグとしてのタバコ・アルコールの害について、P T Aを中心とした地域住民を対象に啓発を推進し、青少年薬物乱用防止教育への協力を呼びかける。</p> <p>(3) 一般県民を対象とした「みんなの薬の学校」や各種講演会・イベント等において、薬物乱用防止は地域ぐるみの活動が重要であることを啓発する。 また、向精神薬や一般用医薬品の適正使用についても啓発を強化する。</p> <p>(4) 薬物乱用防止教育の中で「薬の正しい使い方」及び「アンチ・ドーピング」啓発の必要性を訴求、同啓発用のパンフレットを使用して啓発する。</p> <p>(5) 小・中・高校生等対象「薬物乱用防止教室」への講師派遣。</p> <p>(6) 薬物乱用防止啓発に関する資料の貸出・提供。</p>	<p>(1) 小学校・中学校・高校等で開催された「薬物乱用防止教室」において、担当校の学校薬剤師を中心に講師を務めた。</p> <p>(2) 学校保健委員会や一般県民を対象とした「みんなの薬の学校」や各種講演会・イベント等において、ゲートウェイドラッグとしてのタバコ・アルコールの害や薬物乱用の害について訴求し、薬物乱用防止は地域ぐるみの活動が重要であることをアピールした。</p> <p>(3) 薬物乱用防止教育の中で、「薬の正しい使い方」及び「アンチ・ドーピング」を啓発した。</p> <p>(4) 小・中・高校生対象「薬物乱用防止教室」への講師派遣。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対 象</th><th>実施校数</th><th>受講者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td><td>218 校</td><td>8,287 名</td></tr> <tr> <td>中学校</td><td>128 校</td><td>9,229 名</td></tr> <tr> <td>高等学校・専修学校</td><td>48 校</td><td>5,233 名</td></tr> <tr> <td>P T A等</td><td>6 回</td><td>297 名</td></tr> </tbody> </table> <p>(5) 薬物乱用防止教室の普及と実施への協力。</p>	対 象	実施校数	受講者数	小学校	218 校	8,287 名	中学校	128 校	9,229 名	高等学校・専修学校	48 校	5,233 名	P T A等	6 回	297 名
対 象	実施校数	受講者数															
小学校	218 校	8,287 名															
中学校	128 校	9,229 名															
高等学校・専修学校	48 校	5,233 名															
P T A等	6 回	297 名															

目標 2 薬物乱用者に対する適切な治療と効果的な社会復帰支援による再乱用防止	<p>(1) 薬物依存・中毒者の家族等から相談があった場合、相談先を紹介する。</p> <p>(2) 薬物乱用経験者・同家族や支援機関の求めに応じて、薬物乱用に関わる正しい知識等の啓発を行う。</p>	
目標 3 薬物密売組織の壊滅、末端乱用者に対する取締りの徹底及び多様化する乱用薬物等に対する迅速な対応による薬物の流通阻止	<p>(1) 薬物乱用防止教室において、「薬物乱用を見かけたり、誘われたりした場合には通報すること」「不安や問題を児童生徒が一人で抱え込まないこと」を呼びかける。</p>	<p>(1) 薬物乱用防止教室において、「薬物乱用を見かけたり、誘われたりした場合には通報すること」「不安や問題を児童生徒が一人で抱え込まないこと」を呼びかけた。</p>
目標 4 水際対策の徹底による薬物の密輸入阻止	<p>(1) 各種講習会等において、世界各国の薬物乱用防止活動を紹介し、活動への理解と協力を呼びかける。</p> <p>(2) 海外旅行・留学等において注意すべきことを紹介する。</p>	

目標 5 該当事項なし。

- ① 薬物乱用防止啓発については、岩手県が積極的に取り組んでいることを県民に示すことが重要であり、そのためには関係機関の連携と県の事業としての取り組みが必要である。

例：県民参加型の事業（ポスター・CM・作文・標語・演劇等のコンクール）を企画する。

また、年齢に応じた啓発と、立場の異なる大人が協力して薬物乱用防止啓発に取り組んでいることを示すことが重要である。

さらには、保健医療計画、健康いわて 21 プラン（第 2 次）、自殺対策アクションプラン、アルコール健康障害対策推進計画と連動し、組織横断的な具体的な取組みが求められる。

- ② 薬物乱用防止啓発活動は、県民の健康づくり活動に大きく関わる活動であることを認識し、健康づくり活動に関わる機関・団体等が連携していく必要がある。各市町村で実施されている健康まつりや学校の文化祭、大学祭等、啓発する場の拡大を図る必要がある。
- ③ 薬物乱用防止啓発は、健康教育の一環として健康や生活習慣、防犯等様々の角度から啓発する必要があることから、アルコール・たばこの害についても積極的に啓発していかなければならない。特に、青少年の飲酒・喫煙防止については、アルコール・たばこがゲートウェイドラッグであることを認識させ、危険行動の回避と健康維持の両面から啓発しているが、児童・生徒だけでなく、その親世代にも積極的に啓発する必要がある。
- ④ 薬物乱用防止啓発事業指導者対象の研修会（県薬剤師会・地域薬剤師会）を継続して実施していく。
- ⑤ 指導用資材の紹介・貸出を実施して、質の高い啓発活動となるよう支援していく。
- ⑥ 薬物乱用防止啓発講座や薬物乱用防止教室等の実施（実施形態や資料の使い方、講師派遣等）についてコーディネートし、幅広い啓発活動を推進できるよう支援していく。
- ⑦ 一般用医薬品の購入に関わる啓発や、中学・高等学校の新学習指導要領を意識した「医薬品の正しい使い方」を啓発することで、医薬品がゲートウェイドラッグとしないようにする活動を引き続き推進していく。
- ⑧ アンチ・ドーピング活動の一環として、薬の適正使用や飲酒・喫煙・薬物乱用防止の啓発に取り組んでいる。平成 28 年に開催された、いわて国体においては、地域薬剤師会と協働する形で、行政はもちろん、教育委員会や体育協会、医師会・歯科医師会等との連携のもと、県内各地でアンチ・ドーピング活動を積極的に実施した。いわて国体におけるアンチ・ドーピング活動を通じて、日頃からの教育・啓発の重要性を実感したことから、岩手県体育協会をはじめ、関係機関・団体と連携した取組を継続していく所存である。
- 学校現場においても、学校保健委員会等、機会を捉えて、児童・生徒はもちろん、保護者や教職員に対しても啓発していく必要がある。

別紙様式 2

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体等名： 岩手県精神保健福祉協会

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和5年度実施状況・計画)	参考（令和4年度実施状況）
目標 1 青少年を中心とした 広報・啓発を通じた国民全体 の規範意識の向上による薬物 乱用未然防止	<p>① 「ダメ。ゼッタイ」普及運動の実施 運動期間中、福祉総合相談センター内に、ポスター提示、リーフレットの配架により、普及啓発を図るとともに募金について呼びかけた。</p> <p>② 危険ドラッグ乱用防止啓発ポスターを掲示する。</p> <p>③ 青少年に対する普及啓発 精神保健福祉センターとの共催により、様々な機会を通じて、青少年等を対象に、薬物に関する講話を実施し、普及啓発を図る。</p>	<p>① 「ダメ。ゼッタイ」普及運動の実施 運動期間中、福祉総合相談センター内に、ポスター提示、リーフレットの配架により、普及啓発を図るとともに募金について呼びかけた。</p> <p>② 危険ドラッグ乱用防止啓発ポスターを掲示する。</p> <p>③ 青少年に対する普及啓発 精神保健福祉センターとの共催により、様々な機会を通じて、青少年等を対象に、薬物に関する講話を実施し、普及啓発を図る。</p>
目標 2 薬物乱用者に対する 適切な治療と効果的な社会復 帰支援による再乱用防止	<p>① 各教室等の周知 依存症家族教室、薬物依存症回復支援グループ、の周知を図る。</p> <p>② 関係機関との連携による支援の充実 関係機関へ精神保健福祉センターで実施している薬物依存症回復支援グループ及び依存症家族教室を紹介し、再乱用防止、家族等への支援の充実強化を図る。</p>	<p>① 各教室等の周知 依存症家族教室、薬物依存症回復支援グループ、の周知を図る。</p> <p>② 関係機関との連携による支援の充実 関係機関へ精神保健福祉センターで実施している薬物依存症回復支援グループ及び依存症家族教室を紹介し、再乱用防止、家族等への支援の充実強化を図る。</p>

目標 3～5 該当事項なし。 別紙様式 3 その他、取組事項等なし

別紙様式 2

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体等名：岩手県ふるさと振興部学事振興課

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和 5 年度実施状況・計画)	参考 (令和 4 年度実施状況)
目標 1 青少年を中心とした 広報・啓発を通じた国民全体 の規範意識の向上による薬物 乱用未然防止	<p>① 薬物乱用防止教育等に係る文書などを、各私立学校へ通知し、周知を図る。</p> <p>② 私立学校に対し、啓発用ポスターやパンフレットなどを配布する。</p>	<p>① 薬物乱用防止教育等に係る文書などを、各私立学校へ通知し、周知を図った。</p> <p>② 私立学校に対し、啓発用パンフレットを配布した。</p>

目標 2～5 該当なし

別紙様式 3 その他、取組事項等なし。

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体等名：岩手県環境生活部若者女性協働推進室

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和 5 年度実施状況・計画)	参考 (令和 4 年度実施状況)
目標 1 青少年を中心とした 広報・啓発を通じた国民全体 の規範意識の向上による薬物 乱用未然防止	<p>1 令和 5 年度「青少年の非行・被害防止県民運動」の実施 期間：7 月 1 日から 8 月 31 日まで 内容：少年非行防止啓発ポスターを各市町村等へ配付し、広 報を実施。</p> <p>2 「青少年を非行・被害から守る県民大会」の開催 期日：7 月 12 日 (水) 場所：小田島組☆ほ～る 内容：意見発表・講演を実施するほか、少年非行防止啓発チ ラシの配布、薬物乱用防止パネルの展示を行う予定。</p> <p>3 令和 5 年度「岩手県子ども・若者育成強調月間」の実施 期間：11 月 1 日から 11 月 30 日まで 情報メディア対応能力養成講座 期日：11 月～ 場所：県内 4 カ所で実施予定 内容：インターネットを通じた薬物入手の危険性について講 座内容に入れる。</p> <p>4 いわて青少年育成プラン (2020～2024) における取組の推 進 「薬物乱用防止活動の充実」について、プランの取組項目に明 記 ※プラン 3・(3)・ウ</p>	<p>1 令和 4 年度「青少年の非行・被害防止県民運動」の実施 期間：7 月 1 日から 8 月 31 日まで 内容：少年非行防止啓発ポスターを各市町村等へ配付し、広 報を実施。</p> <p>2 「青少年を非行・被害から守る県民大会」の開催 期日：7 月 13 日 (水) 場所：小田島組☆ほ～る 参加：123 名 (昨年度同様、資料送付及び動画配信あり) 内容：意見発表・講演を実施するほか、少年非行防止啓発チ ラシの配布、薬物乱用防止パネルの展示。コロナ禍の 対応として、参加人数規模を縮小しての実施。</p> <p>3 令和 4 年度「岩手県子ども・若者育成強調月間」の実施 期間：11 月 1 日から 12 月 31 日まで 情報メディア対応能力養成講座 ① 11 月 25 日 (金) 大船渡市 15 名 ② 12 月 1 日 (木) 花巻市 41 名 ③ 12 月 2 日 (木) 二戸市 11 名 ④ 12 月 7 日 (水) 滝沢市 29 名 場所：県内 4 カ所で実施 内容：インターネットを通じた薬物入手の危険性について 講座内容に入れた。</p> <p>4 いわて青少年育成プラン (2020～2024) における取組の推 進 「薬物乱用防止活動の充実」について、プランの取組項目に 明記 ※プラン 3・(3)・ウ</p>

目標 2～5 該当事項なし。別紙様式 3 その他、取組事項等なし。

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体等名： 岩手県医療局

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和5年度実施状況・計画)	参考（令和4年度実施状況）
目標 1 青少年を中心とした 広報・啓発を通じた国民全体 の規範意識の向上による薬物 乱用未然防止	<p>① 各県立病院へ麻薬・覚醒剤（・大麻）乱用防止運動の実施と啓発活動の推進・協力を努めるよう周知する。</p> <p>② 各県立病院において、院内医療従事者へ研修会等を定期的実施し、麻薬・覚醒剤・向精神薬・危険薬物についての知識・意識向上に努める。</p> <p>③ ポスターを当局、及び各県立病院の待合ホール等の目につくところに掲示するとともに、リーフレットを配布する等、薬物乱用防止の啓発に努める。</p> <p>④ 市民公開講座及び開催が可能になれば病院祭等において、危険薬物・薬物乱用の危険性について啓発に努める。</p>	<p>① 各県立病院へ令和4年度麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動の実施と啓発活動の推進・協力を努めるよう周知した。</p> <p>② 各県立病院において、麻薬・覚醒剤・向精神薬・危険薬物について院内研修会（医療安全研修会、研修医研修会、新採用看護師研修会、病棟勉強会等）を開催し、取扱注意薬品の知識や管理意識の向上に努めた。</p> <p>③ 薬物乱用防止のポスターを当局及び各県立病院の待合ホール、お薬渡し口・廊下等に掲示するとともに、リーフレットを配布する等、薬物乱用防止の啓発に努めた。</p> <p>④ 危険薬物・薬物乱用の危険性については、病院祭等において啓発していく予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、令和4年度も実施出来なかった。</p>
目標 2 薬物乱用者に対する 適切な治療と効果的な社会復 帰支援による再乱用防止	<p>① 薬物依存症、中毒者の医療保護の充実及び社会復帰への支援。</p>	<p>① 薬物依存症及び中毒者への入院対応実績は、精神科病棟がある病院において、令和4年度5件であった。</p>

目標 3～5 該当事項なし。別紙様式 3 その他、取組事項等なし。

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体等名：岩手県教育委員会事務局保健体育課

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和 5 年度実施状況・計画)	参考 (令和 4 年度実施状況)
目標 1 青少年を中心とした 広報・啓発を通じた国民全体 の規範意識の向上による薬物 乱用未然防止	<p>1 薬物乱用防止教室の実施状況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査回答依頼：令和 5 年 12 月中旬 (予定) 結果の取りまとめ：令和 6 年 2 月中旬 (予定) <p>2 薬物乱用防止教育の啓発活動通知</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 5 年 5 月 26 日付け通知「各種運動・月間等における薬物乱用防止に係る広報啓発活動の充実強化について (通知)」 啓発資料の配布に関する通知 (令和 6 年 1 から 2 月見込み) 	<p>1 薬物乱用防止教室の実施状況調査 (R 5 年 2 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 4 年度薬物乱用防止教室実施状況 【小学校・義務教育学校 (前期課程)】91.6% (参考：令和 3 年度 89.9%) 【中学校・義務教育学校 (後期課程)】95.9% (参考：令和 3 年度 95.3%) 【高等学校】96.8% (参考：令和 3 年度 92.1%) <p>2 薬物乱用防止教育の啓発活動通知</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 4 年 5 月 23 日付け通知「各種運動・月間等における薬物乱用防止に係る広報啓発活動の充実強化について (通知)」 令和 4 年 5 月 19 日付け通知「薬物乱用防止啓発訪問事業について (通知)」 (令和 4 年度事業) 令和 5 年 1 月 16 日付け通知「『子供のまわりには危険がいっぱい』の配布について」 (小学校 6 年生対象) 令和 5 年 1 月 16 日付け通知「『学生のみなさんへ薬物のこと大麻のこと誤解していると危険です！』の配布について」 (高等学校 3 年生向け) 令和 5 年 3 月 8 日付け通知「薬物乱用防止啓発訪問事業について (通知)」 (令和 5 年度事業) 「令和 4 年度日本薬剤師会学校薬剤師部会『くすり教育研修会』の開催について」

	<p>3 教職員及び外部講師の指導力向上のための研修会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教室講習会（学校薬剤師・警察職員・教職員対象） オンデマンド配信による実施 12月中旬予定 ・初任者研修（養護教諭）Ⅱ（養護教諭初任者対象） 令和5年8月24日（木） 対象者21名 	<p>3 教職員及び外部講師の指導力向上のための研修会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教室講習会（学校薬剤師・警察職員・教職員対象） オンデマンド配信による実施 令和5年1月11日（水）～2月28日（火） ・初任者研修（養護教諭）Ⅱ 令和4年8月25日（木） 受講者8名
--	---	---

目標2～5 該当事項なし。

別紙様式3 その他、取組事項等なし。

別紙様式 2

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体名等名：岩手県警察本部 組織犯罪対策課

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和 5 年度実施状況・計画)	参考 (令和 4 年度実施状況)
目標 2 薬物乱用者に対する適切な治療と効果的な社会復帰支援による再乱用防止	薬物乱用者やその家族向けの薬物再乱用防止のためのパンフレット「相談してみませんか」を県内各署に配分し、必要と認められる末端乱用者等対象者に対し情報提供する体制を構築している。	
目標 3 薬物密売組織の壊滅、末端乱用者に対する取締りの徹底及び多様化する乱用薬物等に対する迅速な対応による薬物の流通阻止	<p>1 薬物密売組織の壊滅に向けた取り組みの推進</p> <p>(1) 組織犯罪対策の推進</p> <p>県内では、覚醒剤事犯の再犯率の高さのほか、若年層を中心とした大麻の蔓延が顕著であることから、末端乱用者や密売人に対する徹底した取締りを実施しており、今後も継続して推進する。</p> <p>(2) 犯罪収益対策の推進</p> <p>乱用者や密売人の検挙を通じて、薬物密売組織の壊滅等に向けた取締りを強化するとともに、麻薬特例法等各種法令を駆使して犯罪収益の剥奪を図る。</p> <p>2 末端乱用者に対する取締りの徹底</p>	<p>1 組織犯罪対策の推進</p> <p>県内では、令和 3 年中の検挙状況から、覚醒剤事犯の再犯率の高さのほか、若年層を中心とした大麻の蔓延が顕著であることから、引き続き末端乱用者や密売人に対する徹底した取締りを実施する。</p> <p>2 犯罪収益対策の推進</p> <p>乱用者や密売人の検挙を通じて密売実態の解明及び壊滅に向けた取締りとともに、麻薬特例法を適用した犯罪収益剥奪を図る。</p> <p>3 巧妙化する密売方法への対応</p> <p>近年、密売の広域化のほか、特殊形態の SNS を悪用した巧妙な取引等、その手法が変化しているこ</p>

	<p>(1) あらゆる活動を通じた取締りの強化 全国的に大麻事犯の検挙人員の増加に歯止めがかかっておらず、県内においても若年層への蔓延が認められることから、需要の根絶・供給の遮断・不法収益対策を重点に、あらゆる活動を通じた取締りを強化する。</p> <p>(2) 巧妙化する密売方法への対応 薬物密売の匿名化や広域化、SNSを悪用した巧妙な取引等、その手法が変化していることから、これに対応した様々な捜査手法を駆使し密売人・乱用者の徹底検挙を図る。 ※本年6月末時点で、覚醒剤取締法違反4人、大麻取締法違反7人の合計11人を検挙している</p> <p>3 多様化する乱用薬物への対応 広報啓発活動を下記のとおり実施する。</p> <p>(1) 警察発行資料や関係機関発行資料を有効活用し、管内情勢に応じて、あらゆる機会を通じた乱用防止啓発活動を行う。 6月から7月を薬物防止広報強化期間としており、薬物乱用防止広報、啓発活動を推進している。</p> <p>(2) 県警ホームページや各種広報媒体を活用し、県警からの薬物乱用に関する注意喚起を行うと</p>	<p>とから、これに対応した様々な捜査手法を駆使し密売人・乱用者の徹底検挙を図る。</p> <p>4 末端乱用者に対する取締りの徹底 全国的に大麻事犯の検挙人員増加に歯止めがかかっておらず、県内への影響も顕著であることから、需要の根絶・供給の遮断・不法収益対策を重点に、あらゆる活動を通じた取締りを強化する。 ※本年6月末時点で、覚醒剤取締法違反8人、大麻取締法違反9人、麻薬及び向精神薬取締法違反で2人の計19人を検挙している。</p> <p>5 多様化する乱用薬物への対応 広報啓発活動を下記のとおり実施する。</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しつつ、警察発行資料や関係機関発行資料を有効活用し、管内情勢に応じてあらゆる機会を通じた乱用防止啓発活動を行う。</p> <p>(2) 県警ホームページや各種広報媒体を活用し、県警からの薬物乱用に関する注意喚起を行うとともに、「不正大麻・けし撲滅運動」に併せて広報活動や自生大麻・けしの発見除去活動を行う。</p> <p>(3) 検挙した初犯被疑者に対し、再乱用の防止に関する働きかけを行うとともに、薬物からの離脱支</p>
--	--	---

<p>目標 4 水際対策の徹底による薬物の密輸入阻止</p>	<p>ともに、「不正大麻・けし撲滅運動」に併せて広報活動や自生大麻・けしの発見除去活動を行う。</p> <p>(3) 検挙した初犯被疑者に対し、再乱用の防止に関する働きかけを行うとともに、薬物からの離脱支援に関する資料を交付する等、需要の根絶・流通の阻止に向けた活動を行う。</p> <p>(4) テレビやラジオ等の広報媒体により、薬物乱用防止を県民に訴える。</p> <p>4 関係機関との連携強化</p> <p>(1) 「銃器・薬物取締り連絡協議会」定例会を通じ、関係機関との情報交換、連携強化を図る。</p> <p>(2) 岩手県銃器・薬物水際対策協力員への薬物情勢の情報提供等を行う等、引き続き協力体制の構築を図っていく。</p> <p>1 関係機関の連携強化</p> <p>(1) 密輸入事犯においては、本年、税関との合同捜査を展開し、コントロールド・デリバリー捜査を積極的に活用した結果、覚醒剤密輸入事犯を検挙した。</p> <p>(2) 県内に向け輸入される薬物に関し、税関等の関係機関と連携し輸入者を検挙し、流通を阻止するとともに、花巻空港における台湾定期便の</p>	<p>援に関する資料を交付する等、需要の根絶・流通の阻止に向けた活動を行う。</p> <p>(4) テレビやラジオ等の広報媒体により、薬物乱用防止を県民に訴える。</p> <p>6 関係機関の連携強化</p> <p>(1) 「銃器・薬物取締り連絡協議会」定例会を通じ、関係機関との情報交換、連携強化を図る。</p> <p>(2) 岩手県銃器・薬物水際対策協力員への薬物情勢の情報提供等を行い、引き続き協力体制の構築を行う。</p> <p>○ 関係関の連携強化</p> <p>県内に向け輸入される薬物に関し、関係機関と連携し輸入者を検挙し流通を阻止するとともに、花巻空港における国外からの薬物密輸入事犯に備え、関係機関と連携し対応する。</p>
--------------------------------	--	--

	<p>運行再開に伴い、国外からの携帯密輸入等の薬物密輸入事犯に備え、関係機関と連携して対応する。</p> <p>(3) 県沿岸部において、漁協、地域住民等から、岩手県警察銃器・薬物水際対策協力員を委嘱しており、沿岸・港湾部の監視体制の強化を図る。</p>	

目標 1 及び 5 該当事項なし。

別紙様式 3 その他、取組事項等なし。

別紙様式 2

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体名等名：岩手県警察本部人身安全少年課

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和5年度実施状況・計画)	参考(令和4年度実施状況)
<p>目標 1 青少年を中心とした広報・啓発を通じた国民全体の規範意識の向上による薬物乱用未然防止</p>	<p>1 学校における薬物乱用防止教育及び啓発の充実 警察官、少年補導職員、スクールサポーターを小・中・高等学校に派遣し、教育機関や県薬剤師会と合同で「薬物乱用防止教室」を開催して薬物乱用防止の規範意識向上を図った。</p> <p>※ 令和5年6月末現在、<u>15校 1,852人</u>に対し実施</p> <p>※ 令和5年6月末現在、少年による薬物事犯は<u>なし。</u></p> <p>2 有職・無職少年に対する啓発の強化 岩手県警察本部人身安全少年課ホームページに、フィルタリングの必要性、薬物の危険性・違法性を広報啓発する情報を掲載するほか、掲載内容について随時見直しを図る。</p>	<p>1 学校における薬物乱用防止教育及び啓発の充実 警察官、少年補導職員、スクールサポーターを小・中・高等学校に派遣し、教育機関や県薬剤師会と合同で「薬物乱用防止教室」を開催して薬物乱用防止の規範意識向上を図った。</p> <p>※ 令和4年中 <u>46校 4,612人</u>に対し実施</p> <p>※ 令和4年中の少年による薬物事犯は、<u>大麻取締法違反にて2人を検挙した。</u></p> <p>2 有職・無職少年に対する啓発の強化 岩手県警察本部人身安全少年課ホームページに、フィルタリングの必要性、薬物の危険性・違法性を広報啓発する情報を掲載した。</p>

	<p>3 家庭・地域での薬物根絶意識の醸成と未然防止のための取組強化</p> <p>(1) 地域の各種イベントや会合時に、薬物乱用防止パネルや薬物標本を展示して薬物乱用防止啓発活動を実施する。</p> <p>(2) 警察本部人身安全少年課少年サポートセンターにおいて、電話相談及びメール相談を受け付けたほか、専用ダイヤル（#9110）により、24 時間体制で警察安全相談を受け付ける。</p> <p>また、各警察署にも相談窓口を設置し、対応に当たる。</p> <p>4 広報・啓発の強化</p> <p>薬物乱用防止広報強化期間（6～7 月）に合わせた広報を実施する。</p> <p>(1) TV 番組「暮らしを守る情報最前線（IBC）」に職員が出演し、薬物乱用防止広報を実施した。</p> <p>(2) 青少年を非行・被害から守る県民大会の会場で薬物乱用防止パネルや薬物標本を展示して広報を実施した。<u>（7 月）</u></p> <p>(3) 交番・駐在所発行のミニ広報紙に薬物乱用防止の記事を掲載する。（通年）</p>	<p>3 家庭・地域での薬物根絶意識の醸成と未然防止のための取組強化</p> <p>(1) 地域の各種イベントや会合時に、薬物乱用防止パネルや薬物標本を展示して薬物乱用防止啓発活動を実施した。</p> <p>(2) 警察本部人身安全少年課少年サポートセンターにおいて、電話相談及びメール相談を受け付けたほか、専用ダイヤル（#9110）により、24 時間体制で警察安全相談を受け付けた。</p> <p>また、各警察署にも相談窓口を設置し、対応に当たった。</p> <p>4 広報・啓発の強化</p> <p>薬物乱用防止広報強化期間に合わせた広報を実施</p> <p>(1) TV 番組「暮らしを守る情報最前線（IBC）」に職員が出演し、薬物乱用防止広報を実施した。</p> <p>(2) 薬物乱用防止広報ポスターを関係機関に送付し、掲示を依頼した。</p> <p>(3) 交番・駐在所発行のミニ広報紙に薬物乱用防止の記事を掲載した。</p>
--	--	---

目標 2～5 該当事項なし。別紙様式 3 その他、取組事項等なし。

岩手県内における取り組み状況について

機関・団体等名：岩手県保健福祉部

目 標	第五次薬物乱用防止五か年戦略を踏まえた取り組み等 (令和 5 年度実施状況・計画)	参考 (令和 4 年度実施状況)
目標 1 青少年を中心とした 広報・啓発を通じた国民全体 の規範意識の向上による薬物 乱用未然防止	<p>① くすりの情報センター事業の実施 (一社) 岩手県薬剤師会への委託により、一般県民を対象として医薬品等の適正使用や薬物乱用の正しい知識についての啓発講座を 10 回以上開催する。</p> <p>② 薬物相談窓口事業の実施 薬物乱用の未然防止に向け、地域住民からの覚醒剤等薬物に関する相談に応じるため、9 保健所に窓口を設置するとともに、講習会等を実施し啓発を図る。</p> <p>③ 覚醒剤等薬物乱用防止啓発事業 地域に根ざした薬物乱用防止活動を実施するために設置した薬物乱用防止指導員を活用し、各種会合等での啓発活動を行う。</p> <p>④ 薬物関連問題相談事業の実施 岩手県精神保健福祉センターにおいて、薬物による精神障害者やその家族に対し個別相談に応じることで、薬物関連問題の発生予防と薬物依存者の社会復帰の促進を図る。</p>	<p>① くすりの情報センター事業の実施 (一社) 岩手県薬剤師会への委託により、一般県民を対象として医薬品等の適正使用や薬物乱用の正しい知識についての啓発講座を 12 回開催した。</p> <p>② 薬物相談窓口事業の実施 薬物乱用の未然防止に向け、地域住民からの覚醒剤等薬物に関する相談に応じるため、9 保健所に窓口を設置するとともに、講習会等を 10 回実施し、啓発を図った。</p> <p>③ 覚醒剤等薬物乱用防止啓発事業 地域に根ざした薬物乱用防止活動を実施するために設置した薬物乱用防止指導員による各種会合等での啓発活動を 257 回実施した。</p> <p>④ 薬物関連問題相談事業の実施 岩手県精神保健福祉センターで、薬物による精神障害者やその家族から個別相談を 128 件受け付け、薬物関連問題の発生予防と薬物依存者の社会復帰の促進を図った。</p>

	<p>⑤ 「ダメ。ゼッタイ」普及運動の実施 運動期間中にポスター、リーフレット等の配布による啓発活動を行う。 県内2ヶ所（宮古保健所管内、二戸保健所）において、小学生等の協力を得てヤング街頭キャンペーンを実施した。</p> <p>⑥ 病院等麻薬取扱施設を対象とした立入検査及び適正管理についての指導の実施。</p> <p>⑦ 不正大麻・けし撲滅運動の実施 県内を巡回し、不正大麻・けしの発見、抜去を実施する。ポスターやリーフレットを関係機関に配布する。</p> <p>⑧ 広報媒体の活用による普及啓発の実施 ラジオ、新聞、市町村広報誌等を活用した啓発を行う。</p> <p>⑨ 危険ドラッグや大麻乱用防止啓発ポスターの作成及び掲示 青少年に対して危険ドラッグや大麻の危険性を周知するため、コンビニ、大学、高等学校及び関係機関等に掲示依頼を行う。</p>	<p>⑤ 「ダメ。ゼッタイ」普及運動の実施 運動期間中にポスター1,020 枚、リーフレット5,600 枚を配布し、啓発活動を行った。</p> <p>⑥ 病院等麻薬取扱施設を対象とした立入検査を 290 回実施し、適正管理について指導を実施した。</p> <p>⑦ 不正大麻・けし撲滅運動の実施 県内を巡回し、大麻 37,663 本、けし 1,884 本を抜去した。ポスター1,040 枚及びリーフレット 2,160 枚を関係機関に配布した。</p> <p>⑧ 広報媒体の活用による普及啓発の実施 保健所等のホームページを利用して啓発を行った。</p> <p>⑨ 危険ドラッグや大麻乱用防止啓発ポスターの作成及び掲示 青少年に対して危険ドラッグや大麻の危険性を周知するため、ポスター1,800 枚を作成し、大学、高等学校及び関係機関等に掲示依頼を行った。</p> <p>⑩ 麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動盛岡大会の実施 麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動の一環で盛岡大会を開催した。コロナ感染症拡大防止の観点から、収録動画をオンラインで配信し、11 月 10 日から 11 月 30 日までの間に約 380 回視聴された。</p>
--	--	---

目標 2～5 該当事項なし。

別紙様式 3 その他、取組事項等なし。